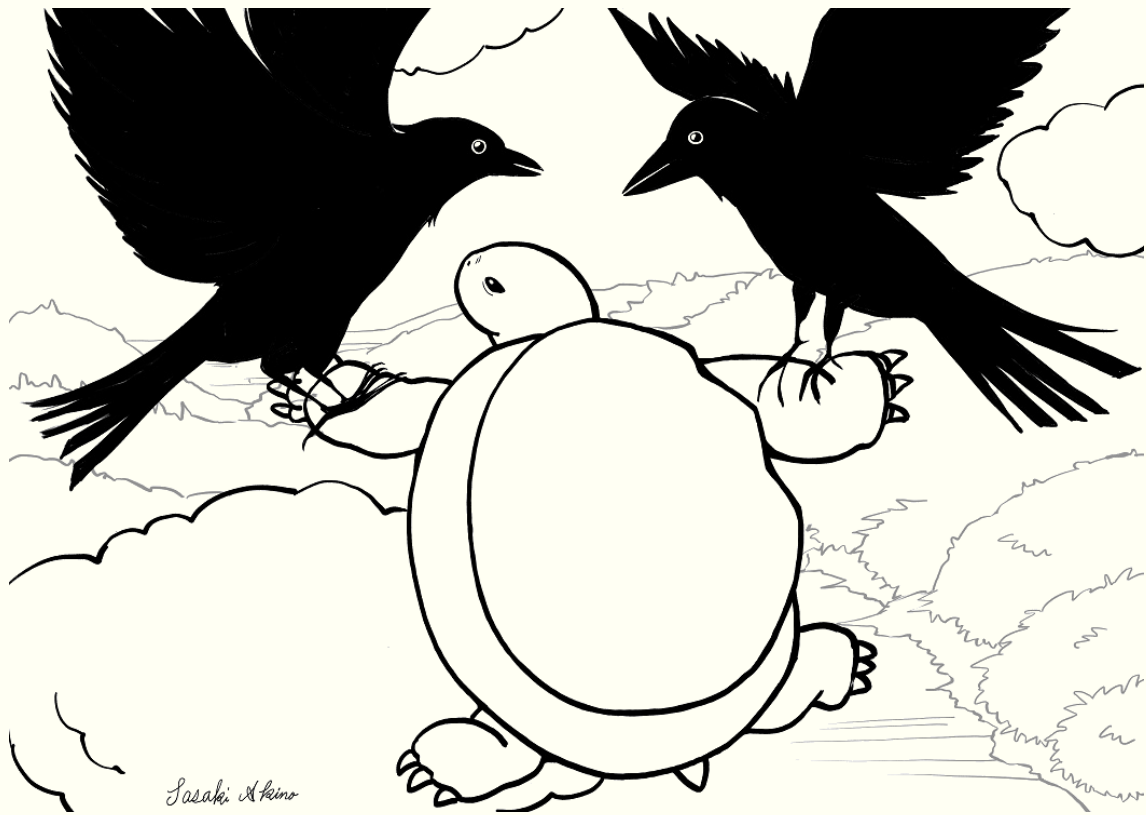


カメのこうらはつぎはぎだらけ？

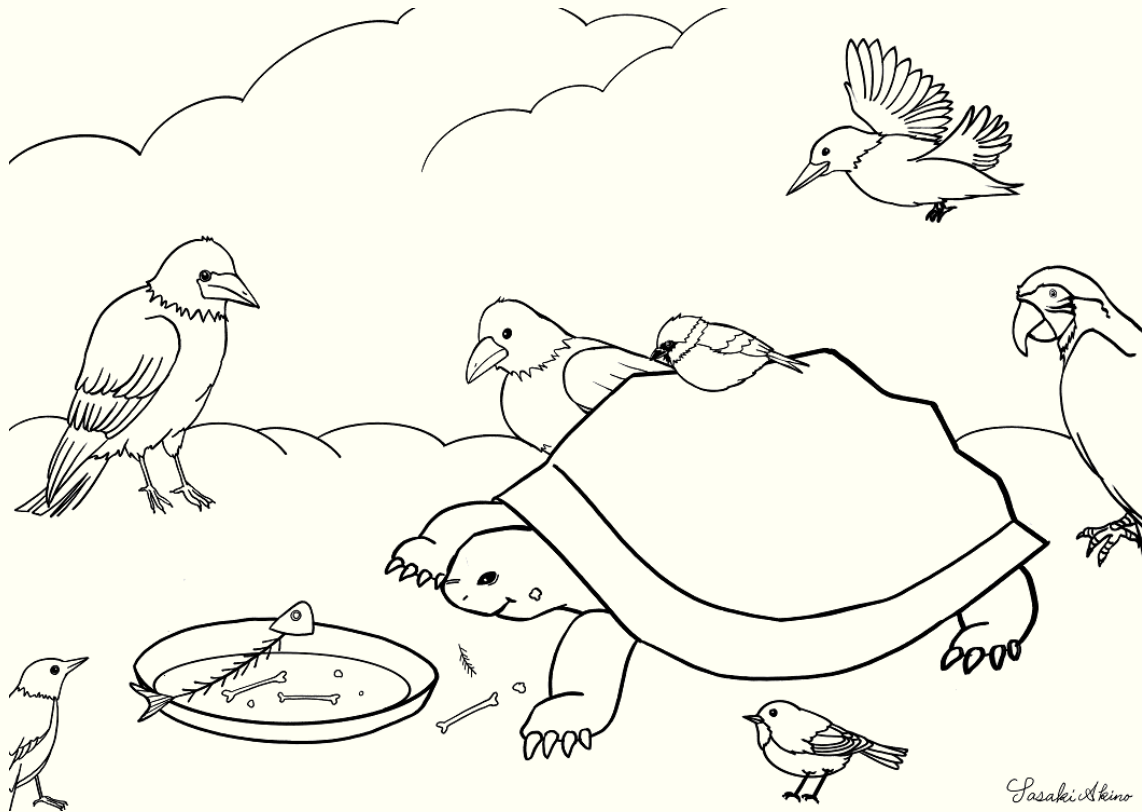
(西アフリカの昔話)



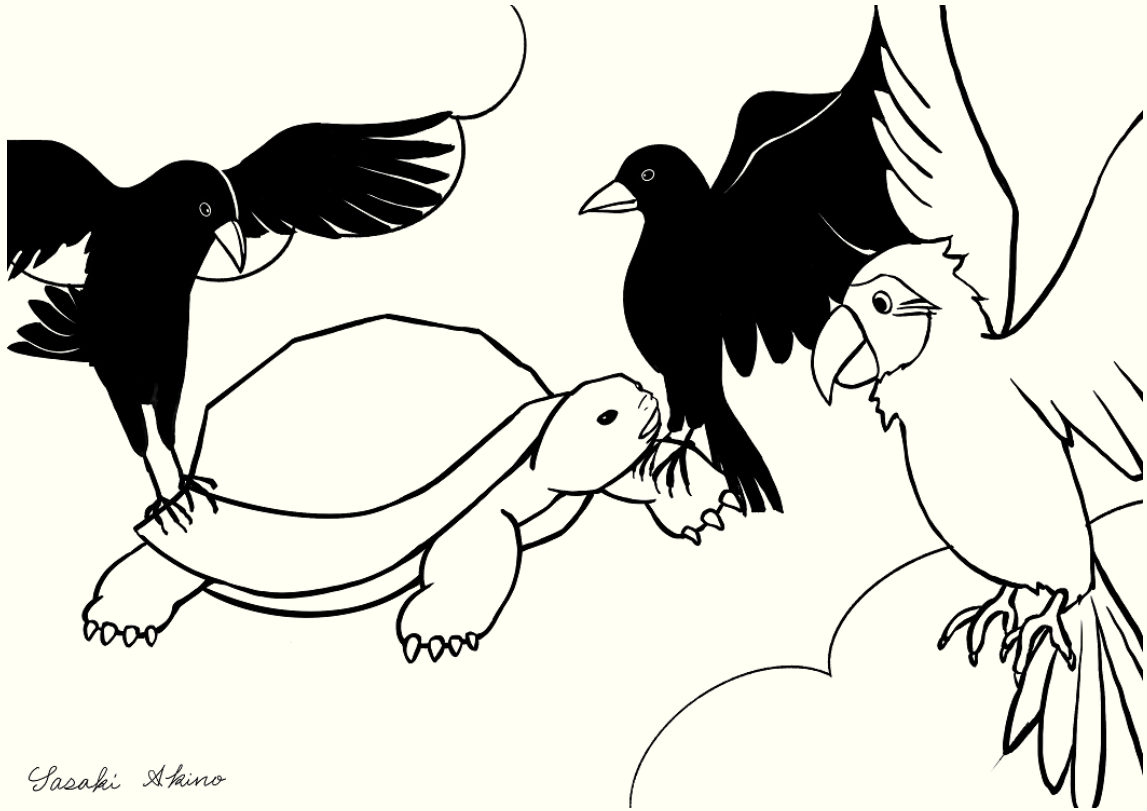
カメの背中には、こうらがあります。それは、カメの家のようにです。でも、カメのこうらは、つぎはぎだらけです。どうしてか、知っていますか？ 知らない？ じゃあ、この西アフリカのストーリーを読んでみましょう。



むかし、あるところにお母さんカメがいました。ある日、鳥たちが彼女をパーティーに誘いました。パーティーは、雲の上であります。カメはパーティーに行きたいです。でも、空が飛べません。だから、2羽の大きいカラスが、カメを雲の上まで連れて行きました。



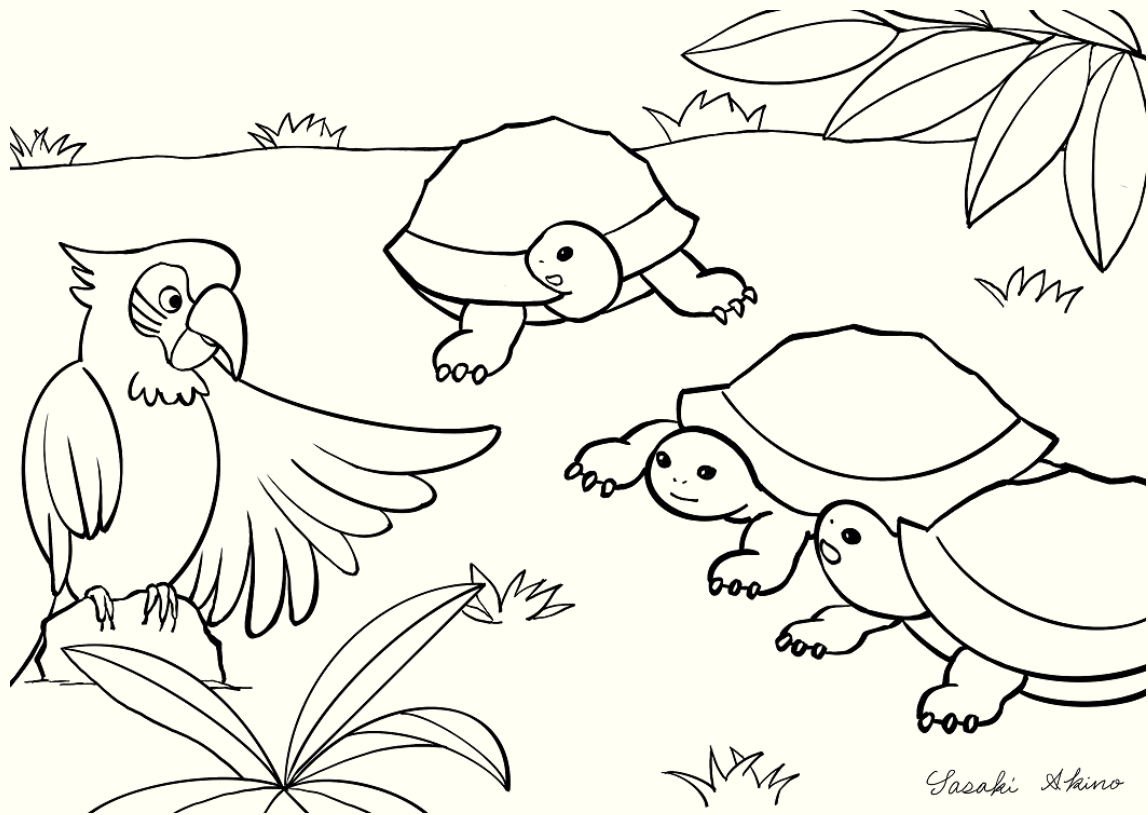
カメはパーティーでおいしい料理を食べました。鳥たちは、お客さんのために、たくさん料理を作りました。でも、カメがひとりでその料理を全部食べてしまいました。お皿には、骨だけ残っています。カメはとてもマナーが悪かったのです。鳥たちは、嫌な気持ちになりました。でも、鳥たちはカメに何も言いませんでした。カメはお客さんだからです。カメは料理を全部食べたあと、ゲップをしました。そして、「神様、ありがとう」と言って、またゲップをしました。



Sasaki Akino

「そろそろ帰るわ」と、カメが言いました。そして、また2羽のカラスがカメを家まで送りました。オウムも一緒でした。帰る途中で、カメはオウムに言いました。

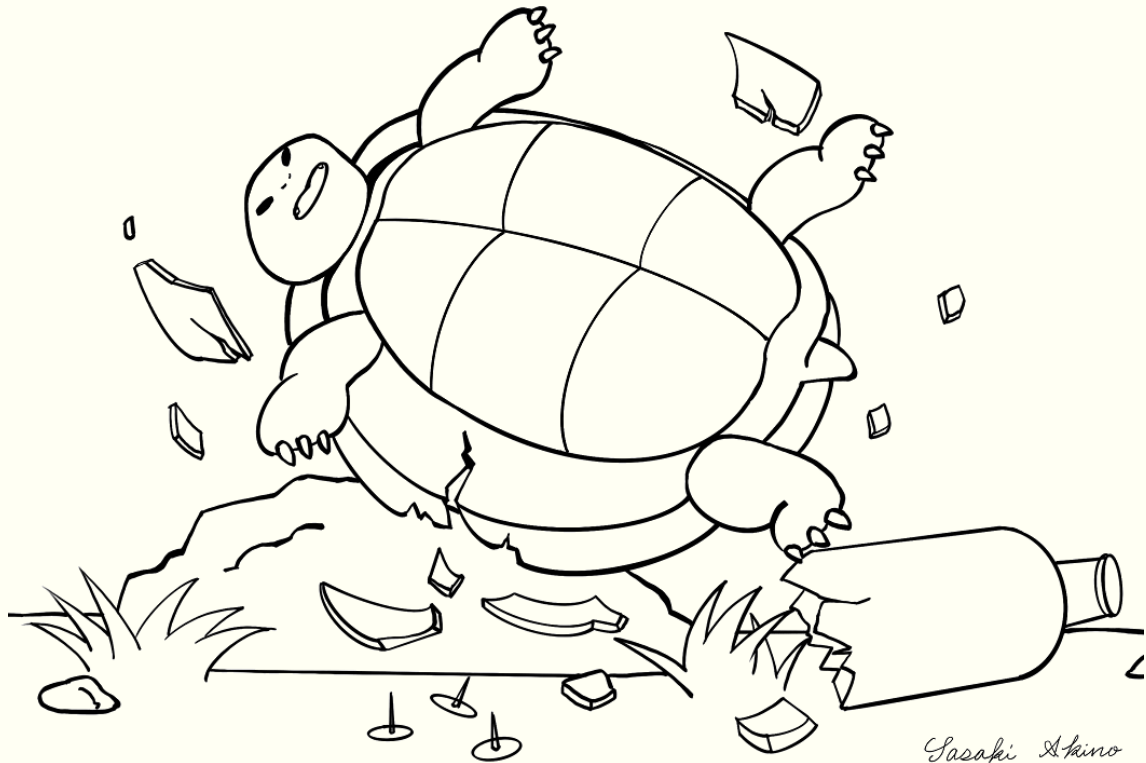
「私の家に先に行って、私の子どもに『やわらかいものを家の前に置いて』と言ってちょうだい。やわらかいものは、綿やカポックの木の葉がいいわ。そこに私を落としたら、私は早く家に着くでしょ」



オウムは、先にカメの家に行きました。そしてカメの子どもたちに言いました。

「あなたのお母さんが、『かたいものを家の前に置いて』と言っていたよ。かたいものは、ナイフとか、石とか、割れたガラスがいいな」

オウムはそう言って、カメとカラスのところに戻ってきました。「ちゃんと伝えたよ」とオウムは言いました。



そして、カメとカラスは、家のそばに来ました。「ここでいいわ。落としてちょうだい」とカメが言いました。カラスは、「そうですか。さようなら」と言って、手を離しました。カメはどんどん落ちていきます。家の前には、ナイフや石や割れたガラスがあります。かたいものばかりです。

「バリバリ！ガシャーン！！」と、とても大きな音がしました。カメのこうらは、バラバラになってしまいました。

「お母さん、だいじょうぶ！？」とカメの子どもたちは言いました。

「だいじょうぶよ。でも、こうらがバラバラになっちゃった。お医者さんのと

ころに行くから、こうらを拾ってちょうだい」とお母さんカメが言いました。子どもたちは、バラバラになったこうらを拾いました。50 個ありました。それを医者のところを持って行きました。医者は、バラバラのこうらをお母さんカメの背中につけました。しかし、きれいには、つきませんでした。

こうして、カメのこうらは、つぎはぎだらけになったということです。

(1176 字)

(2021.7 Written by SOME Donzala David)

(Translated by Toru YOSHIKAWA)

(All pictures are drawn by Akino SASAKI)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.